

Ⅱ-2 PC会議システム等を利用した業務の効率化について

村上 薫

稲葉 力

秋山演亮

Kaoru Murakami

Tsutomu Inaba

Hiroaki Akiyama

はじめに

平成 12 年度より技術研究所が 2 箇所となり、技術研究所長が毎月 1 回午前、午後と 2 箇所で定例会議を実施している。定例会議の内容がほぼ同様のため、1 度の会議で済ませる事にし、既存技術であるパソコンを利用した安価なシステムを適用した。また、展示会等では 1 社当りのブースが限られていて狭いため、パネル等では紹介しきれず、また顧客満足を得るには担当者が駐在する必要があるため、本システムを適用した。

これらの結果、社内及び顧客から多くの改善点が指摘されたので、その改善点と解決方法、今後の進め方及び課題について導入事例と共に報告する。

キーワード

情報の共有化、プレゼンテーション

1. 経緯とシステムの概要（定例会議への適用）

弊社の技術研究所は、平成 12 年度より神奈川県大和市と愛川町の 2 箇所となり、直線距離は 12 km、移動時間は約 1 時間程度である。このため、統合可能な業務である、それぞれの研究所で実施していた毎月 1 回の定例会議を 1 度の会議で済ませるために、安価な方法を検討した結果、パソコンを利用した会議システムを利用することにした。

定例会議は大和側で実施し、システムはそれぞれの研究所に PC と CCD カメラを設置し、ISDN 回線で繋げている。なお、多人数のためにプロジェクターを用いて投影している。また大和側には壇上用と全体用の 2 つの CCD カメラを使用し、愛川側に臨場感が伝わるよう配慮した。図 1 にシステムの概要と使用機器、写真 1, 2 に実際の大和側の様子を示す。図 2 に実際に表示している資料の一例を示す。

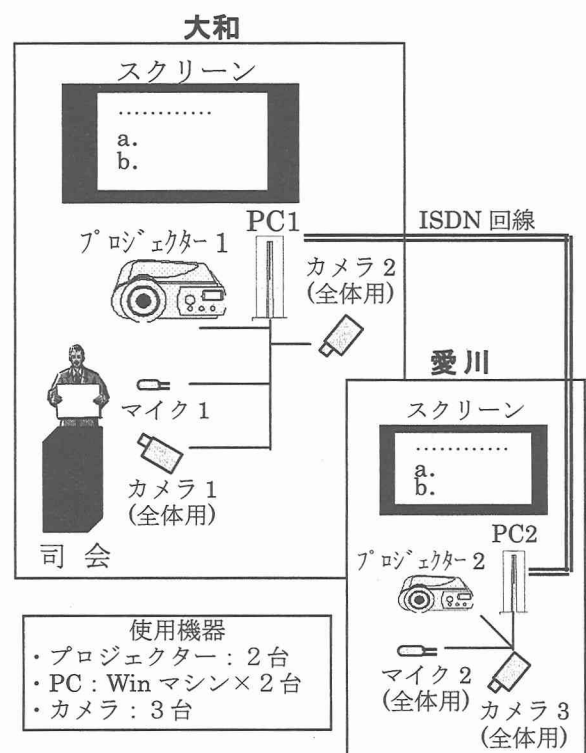


図 1 システムの概要及び使用機器



写真1 実際の様子1 (大和側)

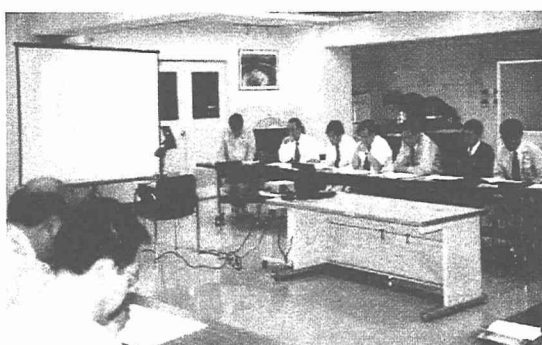


写真2 実際の様子2 (大和側)

平成13年1月9日	
技術研究所 安全衛生会議	
1. 安全衛生委員長あいさつ	
2. 今月の安全衛生目標	
3. 建設業年末年始労働災害防止強調期間	
年末年始災害一掃運動	
4. 平成13年 安全衛生管理目標と基本方針	
5. 平成13年の技術研究所安全衛生管理目標	
6. その他	
7. 実験関係	

図2 実施時の資料の項目例

2. 適用結果

パソコン及び ISDN の能力から、当初は投影した画面を CCD カメラで写し、愛川側に転送することも試みたが、CCD カメラの解像度の問題や、使用時は室内にある程度の明るさがあることから見難い画像となり断念した。また、最初の適用時にソフト上で特定の動作をするとハングアップすることが判明した。しかし定例会議への適用の結果、大幅な時間延長もなく、予定事項は全て終了した。

3. 改善点及び解決方法

安価な方法であることが条件のため、それを補うシステムにする必要があるが、そのための意見や要望を受けた。主なものを以下に示す。

- 定例会議中に停止してはいけない
- 大和側でページ展開が速すぎると、愛川側のページ展開が遅れ、音声と一致しない。
- 大和側でシステム操作している時、愛川側が操作権を奪ってしまう。
- カメラアングルの問題

以上に対する改善点を以下に示す。

- 事前準備を確実にし、ソフトの不具合を把握して回避方法を確立しておく。
- ファイル容量をなるべく少なくし、特に画像は軽量化する。愛川側を考慮し、ページ展開時に数秒程度の間を置く。
- 事前の取り決めをしておく。
- 事前に考えられる全てのアングルを取り決めておく。

4. システムの概要（展示会への適用）

弊社は年間数十回の展示会を日本各地でこなしており、各展示会の出展テーマは建築、土木、環境の中からさらに多岐にわたっている。展示会は顧客に対し、弊社の保有技術や成果物を直接宣伝することが出来る貴重な機会であるが、展示技術の担当者が不在の場合が多く、専門的な質問は顧客から聞き取り、帰社後に担当者に伝えてから返答していた。このため、顧客が欲しい情報を欲しい時に提供することが出来なかった。展示技術以外の技術に関する質問の場合も同様であった。

実施には、3種類のシステムを適用した。定例会議に使用したシステムとの違いは、PHSやWebサーバーを使用した点である。

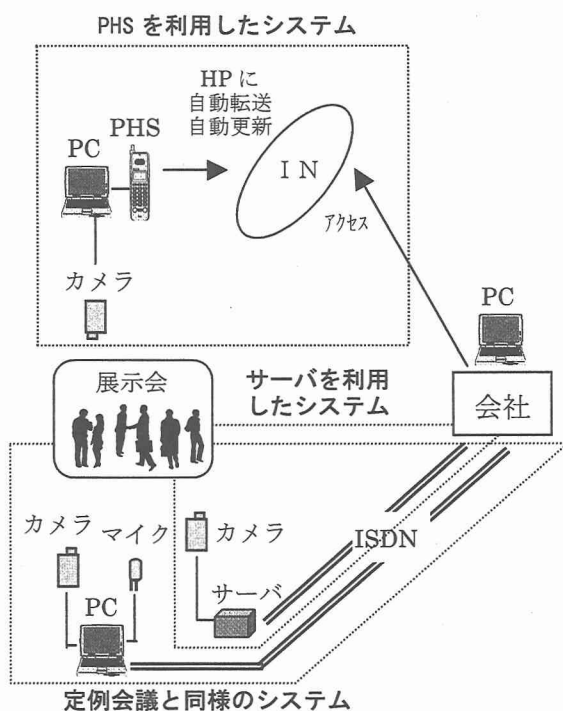


図2 システムの概要及び使用機器

5. 適用結果

PHSを利用したシステムは、INにHPを開設すれば、最も安価なシステムであり、ソフト上で撮影間隔、送信時間等を設定し、自動でこれらをこなす。当初は安価という理由のみで適用したが、弊社ブースの様子（混み具合）程度にしか利用出来なかった。このシステムは全体状況の把握や、半日から日単位で変化する比較的大きな対象物の監視等に利用用途が絞られたという印象を受けた。

Webサーバーを利用したシステムは、パソコン不要が最大のメリットであり、操作ミスの可能性も低い。しかし、接客をおこなう展示会ではパソコンで臨機応変な対応をする方が顧客満足がより得られるという印象を受けた。

定例会議に使用したのと同様のシステムは、最も展示会に適したタイプと思われる。特にブース内に来場者がいない時に弊社から見て判断し、保有技術の宣伝に切り替えることも可能であり、効率が良い。

なお、当初の予想通り、展示会への適用は定例会議への適用と違い、双方向の会話が多数発生した。

6. 改善点及び解決方法

主に定例会議に使用したのと同様のシステムについての意見や要望を受けた。主なものを以下に示す。

- a. 展示会開催中に停止してはいけない
- b. 顧客への説明時に、大和側でページ展開が速く、展示会場の画像が準備中に説明してしまう。説明員も状況を把握出来ない。
- c. 展示会場の明るさ

改善点を以下に示す。

- a. 事前準備を確実にし、停止しても事前準備した紙資料で対応する。
- b. ファイル容量をなるべく少なくし、特に画像は軽量化する。説明者には事前にこのことを了承してもらい、ページ展開時に数秒程度の間を置く。問いかけや会話の反応を画像で確認しながら進めるようにする。
- c. 開始前にチェックする。

7. 今後の進め方及びまとめ

業務の効率化と同時に、安価であることを求められたが、それを補うようなシステムを構築していくための多くの意見を頂くことができた。その結果、改善点にも示したように、事前準備が重要であることを痛感した。

今後は利用者の意見が反映された、受け入れられやすいシステムにしていきたい。また、今回紹介した適用事例以外にも利用用途を広げたい。

光ファイバーが敷設された時等、現場レベルでも実用的な双方向通信が可能になると思われる。来るべきその時に備え、建設業の付加価値サービスとしての利用も視野に入れて、今後のシステムの改良やドラスティックな転換もおこなっていききたい。

昨今の建設各社による新規事業分野の進出や検討が盛んであるが、これまでの請負業の姿勢ではなく、職員個々が持っている技術や知恵を第3者に必要十分の範囲でわかりやすく説明出来る「プレゼンテーション能力」を高める事が重要であると思っている。

最後に、今回のシステムを適用するにあたり、ご指導、ご協力いただいた関係各位に深く感謝致します。